

## 税金にこめる感謝と希望

小松市立芦城中学校3年 鈴木 奏式

「グンオン。」九十七歳になった僕の曾祖母は、時々この言葉を口にしながら母と会話をする。意味は分からずに聞き流していたが、気になったので母に尋ねた。「グンオン」とは「軍人恩給」のことで、日本の戦時中に軍隊に勤務した人が、今でも国からもらうことができるお金のことだそうだ。実際に戦争に行っていたのは僕の曾祖父だが、曾祖父が亡くなってからは、配偶者である曾祖母がそれを三ヶ月に一度受け取っている。曾祖母は高齢なので、高齢者福祉施設に入居している。それなりに入居費用は高いそうだが、曾祖母自身の年金と、国から支給されている曾祖父の軍人恩給のおかげで費用はまかなえるそうである。

日本の税金の三割以上は社会保障にあてられている。その中にこの恩給も入っているわけだが、現在は旧軍人と遺族、あわせて約二十三万人がこの軍人恩給を受け取っている。恩給の支給額は軍に従事した年数によって異なるが、今年度は千六百四十億円の予算が組まれていて、平均年齢約九十四歳の人たちに支給されているそうである。

社会や総合の学習で戦争について学習した。長い戦争は人々から平和と命を奪った許すことのできない出来事である。戦争が終わって七十五年がたった。戦争は僕たちにとって、もはや歴史の一部でしかない。しかし、多額の負債を抱えながらも、国は戦争で戦った人たちに保償を続けている。これは、残り少なくなった戦争体験者から、その歴史を後世に伝えてほしいという願いも込められているのではないだろうか。遠い昔、国のために命を捧げた人がたくさんいた。今ある社会保障の一部は、その人たちやその家族への感謝と、未来の平和を約束する思いが込められていると信じたい。

「グンオン。」これは曾祖母にとって自分の命をつなぐ大切なものであると同時に、戦争の歴史を振り返り、曾祖父に感謝し、今の平和に感謝し、穏やかに余生を送れることに安心する大切なものであるに違いない。

僕は今、毎日平和に暮らしている。税金のおかげで学校に通い、学習ができている。それは、将来納税者になるという約束のもとに成り立っていると思っていた。しかし今回、軍人恩給について知り、同じような平和な暮らしは、これまで国を支えていた世代にもしっかりと税金で保障されていると学んだ。今ある快適な暮らしは、今の納税者だけではなく、昔から積み上げられてきたものだ。これまで国を支えてきた世代へ感謝の気持ちをこめた税金、そして、未来を創る子どもたちのための税金。僕も大人になったらしっかりと税を納め、過去と未来を感謝と希望でつなぐ税のリレーに参加したいと思う。